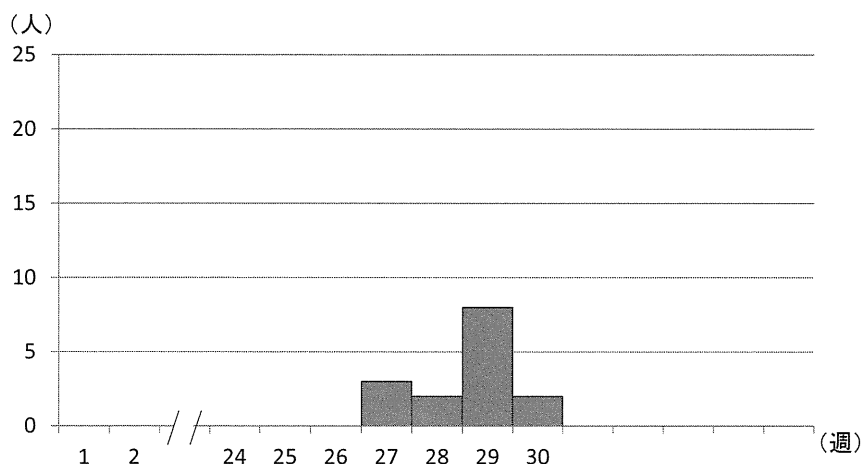


EHEC O145VT2 (2011年1-30週)



演習2: EHEC O145VT2の発生(2)

30週の段階症例3保健所から週あたり1-3例程度の報告であり、保健所に問い合わせを行い、29週に発症した患者(5歳男)が1名HUSを発症し、この他に3名入院していた。このうち家族やカップルでの発症例が確認された。PFGEの結果は翌週の月曜日との状況であった。

- 質問2: 30週の時点で、収集したリスク評価を検討してください。
- 質問3: 30週までの発生状況とリスク評価をもとに県庁や保健所に対してどの様に報告をしますか。

演習2: EHEC O145VT2の発生(3)

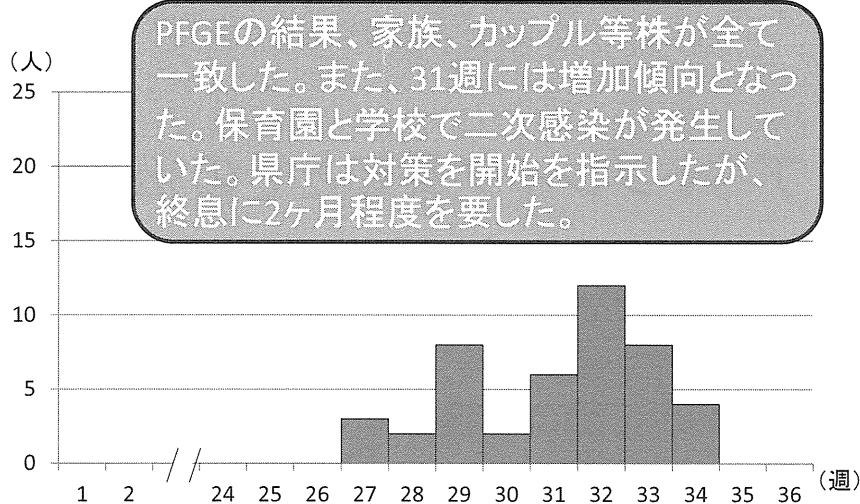
県庁は連絡を受け、PFGEの結果がまだ出ないので、対策は不要との見解をだした。保健所の担当は対策が必要ではと考えていました。

- 質問3: 県庁の判断に対して地方情報センターとして県庁に対しどの様な対応をしますか。考えられる内容や工夫する内容などを検討してください。
-
-

演習2: EHEC O145VT2の発生(4)

PFGEが家族内、カップル等で一致した。また、31週には増加傾向となった。保育園と学校で二次感染が発生した。

演習2: EHEC O145VT2の発生(4)



演習3

1. 感染症発生動向調査からアウトブレイクを探知した経験はありますか？
2. ありの場合、探知した疾患は何か？(全て、全数、定数問わず)→どの様な方法で、入力ミスの可能性の高いものを本庁に知らせる
3. アウトブレイク探知した場合何処に伝えるか？保健所のみ、本庁のみ、両方、その他→方法(提供資料)
4. 保健所、本庁に伝えた場合、その反応はどうか？反応あり、反応なし、不明、その他
5. 反応なしの場合、どんな反応だったか→それを解決するには？当日どうすれば良いかディスカッション

アウトブレイク探知とその伝達

アウトブレイクの探知

	人	%
あり	12	40.0
なし	17	56.7
不明	1	3.3
合計	30	100.0

コメント:
思ったより探知はされている可能性
を感じた

探知した疾患

- 風しん
- 麻しん、マイコプラズマ肺炎
百日咳
- 細菌性赤痢
- 感染性胃腸炎が夏に増加した(一保健所のみ増加)
- 細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎
- 感染性胃腸炎、麻しん、O157
- A型肝炎、百日咳、O157
- 腸管出血性大腸菌感染症、麻しん
- インフルエンザ、伝染性紅斑、手足口病、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎、マイコプラズマ肺炎
- 急性出血性結膜炎、EHEC O26
- 過去に保健所が探知した例あり(A型肝炎)
- 手足口病、RSウイルス
- 例えば、常に無い疾病が入っていた場合、1医療機関に偏って数値が多かった場合、流行性耳下腺炎、水痘
- ムンプス

探知方法(1)

- 保健所でそれまでに例がない報告数が続いた
- 感染症発生動向調査(全数、定点)
- 定点外医療機関からの情報提供
- 患者住所から地図で発生の分布を確認し、鉄道の同一路線上にあったのでこれは何かあるのではと思った。当自治体では感染症情報センターは疫学調査はしないが、保健所から感染源を教えてくれた
- データを入力している際に、例年と違うということが分かった
- 集団発生による病原体サーベイランスの検査依頼、国立感染症研究所からの依頼

探知方法(2)

- 施設からの通報、全数報告
- 報告数
- サーベイランス(発生動向調査)
- 大阪府では感染症発生動向解析小委員会が毎週行われていて例年のグラフより多い状態が続いたため
- 感染症発生動向調査より
- 週報データ、長期的な流行、通年値より高い値の継続

アウトブレイクの伝達先

	人	%
保健所のみ	3	12.0
本庁のみ	5	20.0
保健所と本庁	13	52.0
その他	3	12.0
保健所・本庁・その他	1	4.0
合計	25	100.0

探知方法

- 本庁に保健所に対して調査するように提案
- 国立感染症研究所(その他)
- 週報には掲載できないが、医師会メーリングリスト等を通じて情報提供をしていただいた
- 本庁で把握し、本庁が保健所に連絡するので(その他)
- もし出たら(発見することができたら)
- 数が多い、何があったか聞く。そうすると問い合わせなどしてくれる
- 本庁から保健所へ伝える
- 本庁から各保健所へ
- 同じ衛研内の微生物担当
- 事例なし
- HP上に発表
- 医師会HP
- まずは保健所に入力の間違いでないか、医療機関への問い合わせのお願い、例えば保育園での流行、休日当番医に当たっていた場合

アウトブレイク探知伝達後の反応

	人	%
反応あり	11	64.7
反応なし	0	0.0
不明	3	17.6
その他	3	17.6
合計	17	100.0

反応:その他の内容等の記載

- 調査し、当該施設への対策指導
- 特定の保育園、特定の年齢からの発生はないかを担当に定点医療機関の先生にきいてもらった。結局、関連性は見つからなかった。
- それに基づきプレス発表、検査指示を本庁が行う
- 保健所で把握していれば様子を見る等お互いのできるのでそれでよい(その他)
- 伝文対応準備中に減少したため具体的な検査等はなし(その他)

反応なしの場合の反応

- 考えてくれて、必要であれば対策をとってくれる
- ~~情報センター経験者を本庁に配属する~~

消してあったコメントです

反応なしの場合の解決策

- 本庁に専門職がおらず、事務職ばかりの場合はデータをわかりやすく加工し(現在の状況、辛の比較等)、資料を作成し、視覚的にも分かるようなものを使いながら説明する。本庁に、Dr、PHN等の専門職がいる場合にはおそらく何かの反応はしてくれると思う。
- 反応ない→客観的な証拠が足りない、証拠があればそれだけ反応はあると思われる。大腸菌であれば喫食調査の結果の解析など。
- 保健所、本庁とも何でも言える関係になっておく。

ラボベースだと早期探知、早期対策に繋がらない場合がある点の認識がない可能性あり

欄外の記載

- アウトブレイクを保健所が探知した場合、地方感染症情報センターに報告する前に本庁に報告し、あとからセンターが情報を得るという流れ有り。アウトブレイクに積極的に関わる役割を担うには難しいと考えます。

今後へ向けて

- 講義
 - 基本的な事項を重点にかなりしつこくやりすぎたかもしれない
- 演習
 - 双方向で出来たような印象あり
- 次回へ向けての改善点
 - 説明は短くする
 - 演習を多くする
 - 自治体でアウトブレイクの探知、保健所および県庁への連絡等が行われている事例をもとに演習の実施など

Ⅲ 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍:なし
雑誌:以下のとおり

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hasegawa S, Hirano R, Hashimoto K, Haneda Y, Shirabe K, Ichiyama T	Characteristics of atopic children with pandemic H1N1 influenza viral infection: pandemic H1N1 influenza reveals 'occult' asthma of childhood	Pediatr Allergy Immunol	22	119-23	2011
Hasegawa S, Matsushige T, Inoue H, Shirabe K, Fukano R, Ichiyama T	Serum and cerebrospinal fluid cytokine profile of patients with 2009 pandemic H1N1 influenza virus-associated encephalopathy	Cytokine	54(2)	167-72	2011
Okuda M, Hinoda Y, Okayama N, Suehiro Y, Shirabe K, Sasaki S, Kunitsugu I, Yoshitake N, Hobara T	Association between the FTO gene and overweight in Japanese children and adolescents	Pediatr Diabetes	12(5)	494-500	2011
Hasegawa S, Hirano R, Okamoto-Nakagawa R, Ichiyama T, Shirabe K	Enterovirus 68 infection in children with asthma attacks: Virus-induced asthma in Japanese children	Allergy	66(12)	1618-1620	2011
Hiroi S, Koike N, Nishimura T, Takahashi K, Morikawa S, Kase T	Genetic analysis of human adenovirus type 54 detected in Osaka, Japan	Jpn J Infect Dis	64(6)	535-7	2011
Morlighem JÉ, Aoki S, Kishima M, Hanami M, Ogawa C, Jalloh A, Takahashi Y, Kawai Y, Saga S, Hayashi E, Ban T, Izumi S, Wada A, Mano M, Fukunaga M, Kijima Y, Shiomi M, Inoue K, Hata T, Koretsune Y, Kudo K, Himeno Y, Hirai A, Takahashi K, Sakai-Tagawa Y, Iwatsuki-Horimoto K, Kawaoka Y, Hayashizaki Y, Ishikawa T	Mutation analysis of 2009 pandemic influenza A(H1N1) viruses collected in Japan during the peak phase of the pandemic	PLoS One	6(4)	e18956	2011
Ninomiya-Mori A, Nukuzuma S, Suga T, Akiyoshi K, Nukina M, Tanaka T	Genetic evidence for containment of viruses in the first outbreak of influenza A pandemic (H1N1) 2009 in Kobe, Japan	Influenza Other Respi Viruses	5(3)	180-7	2011
Zeng H, Hatabayashi H, Nakagawa H, Cai J, Suzuki R, Sakuno E, Tanaka T, Ito Y, Ehrlich KC, Nakajima H, Yabe K	Conversion of 11-hydroxy-O-methylsterigmatocystin to aflatoxin G1 in <i>Aspergillus parasiticus</i>	Appl Microbiol Biotechnol	90(2)	635-50	2011

Yoshida A, Kiyota N, Kobayashi M, Nishimura K, Tsutsui R, Tsukagoshi H, Hirano E, Yamamoto N, Ryo A, Saitoh M, Harada S, Inoue O, Kozawa K, Tanaka R, Noda M, Okabe N, Tashiro M, Mizuta K, Kimura H	Molecular epidemiology of attachment glycoprotein (G) gene in respiratory syncytial virus in children with acute respiratory infection in Japan in 2009/2010	J Med Microbiol			in press
Mizuta K, Saitoh M, Kobayashi M, Tsukagoshi H, Aoki Y, Ikeda T, Abiko C, Katsushima N, Itagaki T, Noda M, Kozawa K, Ahiko T, Kimura H	Detailed genetic analysis of hemagglutinin-neuraminidase glycoprotein gene in human parainfluenza virus type 1 isolates from patients with acute respiratory infection between 2002 and 2009 in Yamagata prefecture, Japan	Virology	8	533	2011
Nishina A, Kimura H, Kozawa K, Sommen G, Nakamura T, Heimgartner H, Koketsu M, Furukawa S	A superoxide anion-scavenger, 1,3-selenazolidin-4-one suppresses serum deprivation-induced apoptosis in PC12 cells by activating MAP kinase	Toxicol Appl Pharmacol	257(3)	388-95	2011
Nishina A, Kimura H, Kozawa K, Sommen G, Favero F, Heimgartner H, Koketsu M, Furukawa S	3-(2,6-dimethylphenyl)-2-selenoxo-1,3-thiazolidin-4-one suppresses hydrogen peroxide-induced cytotoxicity on PC12 cells via activation of MAPK	Int J Toxicol	30(6)	690-9	2011
Tsukagoshi H, Mizuta K, Abiko C, Itagaki T, Yoshizumi M, Kobayashi M, Kuroda M, Kozawa K, Noda M, Ryo A, Kimura H	The impact of Saffold coronavirus in patients with acute respiratory infections in Yamagata, Japan	Scand J Infect Dis	43(8)	669-71	2011
Ishioka T, Kimura H, Kita H, Obuchi M, Hoshino H, Noda M, Nishina A, Kozawa K, Kato M	Effects of respiratory syncytial virus infection and major basic protein derived from eosinophils in pulmonary alveolar epithelial cells (A549)	Cell Biol Int	35(5)	467-74	2011
Arakawa M, Okamoto-Nakagawa R, Toda S, Tsukagoshi H, Kobayashi M, Ryo A, Mizuta K, Hasegawa S, Hirano R, Wakiguchi H, Kudo K, Tanaka R, Morita Y, Noda M, Kozawa K, Ichiyama T, Shirabe K, Kimura H	Molecular epidemiological study of human rhinovirus species ABCs from patients with acute respiratory illnesses in Japan	J Med Microbiol	61	410-9	2012
Yasugi M, Nakamura S, Daidoji T, Kawashita N, Ramadhany R, Yang GS, Yasunaga T, Iida T, Horii T, Ikuta K, Takahashi K, Nakaya T	Frequency of D222G and Q223R Hemagglutinin Mutants of Pandemic (H1N1) 2009 Influenza Virus in Japan between 2009 and 2010	PLoS One	7(2)	e30946	2012

